

教育報告

遠隔による国際ネットワークを活かした中国語教育 —多様な視点の育成と発信型中国語の試み—

福田 翔

日本において、大学の授業で学んだ中国語を積極的に使用できる場面は非常に少ないと言える。そこで、富山大学における中国語の授業（「発展多言語演習中国語」）で、中国の大学とのネットワークを活かして、オンラインで中国の学生とコミュニケーションを行う場を提供し、通常の授業内では体験できない生きた中国語に触れるという試みを行った。また、2020年度「発展多言語演習中国語」の履修者は中国語初級レベルの学生が多く、中国語で会話を行う準備として、事前にまとめた分量の作文を書くという課題を課し、さらにその作文やオンラインでの会話から得られた中国語を題材にして文法や表現に関する講義を行った。本稿は、この一連の言語教育活動について、特に参加者の感想や意見などを交えて、報告を行うものである。

1. はじめに

本稿は、富山大学における教養教育科目外国語系の初修外国語（第二外国語）科目として開講されている「発展多言語演習中国語¹」（2020年度）の授業の中で実施した、中国の大学生とオンラインで行った中国語と日本語の言語交換活動について、主に参加した学生の感想を交えて²、その結果を報告するものである。

この言語交換活動は、授業で学んだ中国語を積極的に使用する場を提供することで、中国語の上達を目指すことはもちろんのこと、同世代の中国の大学生と繋がることで、多様な文化や考え方に触れ、中国や中国語に対する興味、関心をさらに高めることを目的として、実施した。

以下、2節では授業における言語交換活動の実施の流れについて、3節では本活動の今後の課題や改善点について、学生の状況、感想、意見などを交えて述べることとする。

2. 国際ネットワークを活かした中国語会話：「発展多言語演習中国語」での試み

2020年度の「発展多言語演習中国語」を履修した学生は、9名おり、各々の学習者情報（学年、授

業履修歴、学習歴、中国滞在歴・留学籍、検定試験受験歴、普段の生活での使用言語)の詳細は下記の通りである。

表 1. 「発展多言語演習中国語」(2020 年度・前学期集中講義)履修者の学習者情報

ID	学年	授業履修歴 ³	学習歴	中国滞在歴・留学籍	検定試験受験歴	普段の生活での使用言語
TU_1	2	基礎 I II/その他(演習)	18 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_2	2	基礎 I II/コミュニケーション I II	18 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_3	2	基礎 I II	12 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_4	2	基礎 I II	12 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_5	1	基礎 I/コミュニケーション I	6 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_6	1	基礎 I/コミュニケーション I	5 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_7	1	基礎 I/コミュニケーション I	5 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_8	1	基礎 I/コミュニケーション I	4 ヶ月	なし	なし	日本語
TU_9	1	履修歴なし	24 ヶ月	84 ヶ月	なし	日本語/中国語

履修者の内訳は、大学 2 年生の学生が 4 名、大学 1 年生の学生が 5 名であり、その中に、富山大学での中国語の授業の履修歴はないが、中国での滞在歴がある 1 年生の学生が 1 名いる。また、履修者全員、公的な検定試験の受験歴はないため、中国語レベルを厳密に規定することはできないが、「中国語検定試験(中検)」の認定基準に照らし合わせると、4 級(中国語学習を進めて行く上での基礎的知識を身につけていること)、あるいは準 4 級(平易な中国語を聞き、話すことができること)程度の学生が多いと考えられる⁴。

「発展多言語演習中国語」は集中講義として開講しており、2020 年度は、9 月 23 日、24 日、25 日、28 日、29 日の 5 日間に渡って、1 日 3 コマ、合計 15 コマ(1 コマ 90 分)の授業を行った。その中で、図 1 で示したように、「作文の執筆」、作文をもとにした「オンライン言語交換」、そして「言語交換・作文の内容を題材にし

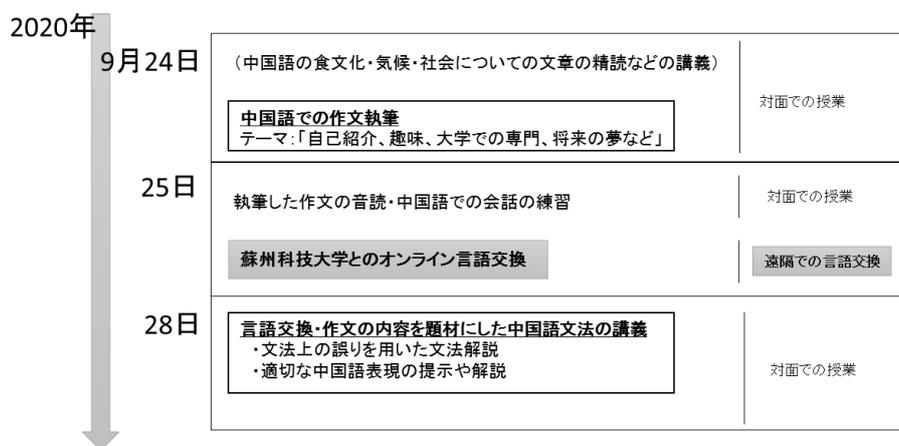


図 1. 蘇州科技大学とのオンライン言語交換の流れ

た中国語文法の講義」という流れで活動を実施した。このオンライン言語活動は、中国・蘇州科技大学で日本語を学習している学生と、Web 会議システムを利用して、学生同士一対一のペアで実施した⁵。具体的な内容として、「作文執筆」については 2.1 節、「オンライン言語交換」については 2.2 節、「言語交換・作文の内容を題材にした中国語文法の講義」について 2.3 節で、その詳細について報告する。

2. 1. 作文執筆

オンラインで中国の学生と中国語で会話を行うために、その準備として、まずは 300～500 字程度の中国語の作文課題を課した。作

文課題のテーマは、「自己紹介、趣味、大学での専門、将来の夢など」とし、書きたいことを比較的自由に書くことができるように設定した。また、図 2 から分かるように、2020 年度の「発展多言語演習中国語」の履修者で、300 字以上の作文を書いた経験のある者は 1 名のみで、その執筆回数も「1～3 回程度」とそれほど多くなく、また、その他の履修者

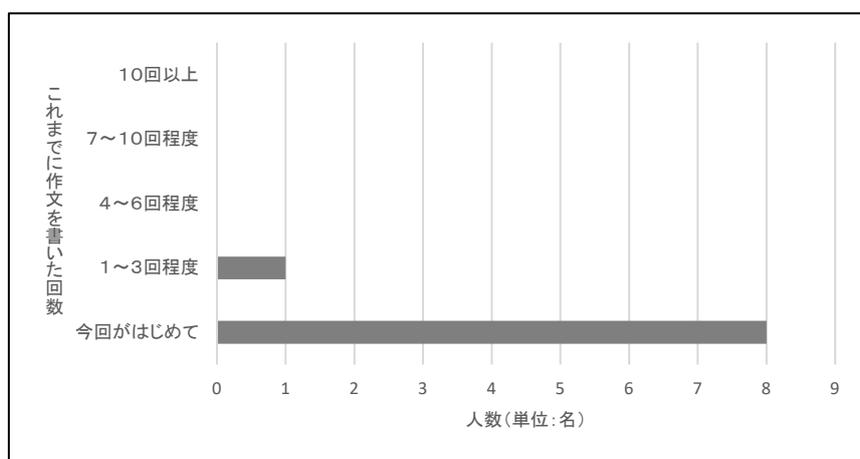


図 2. これまでに 300 字以上の中国語作文を書いた回数別の人数

は一度も 300 字以上の作文は書いたことがないという状況である。作文の執筆は、中国語の辞書およびインターネットでの検索（自動翻訳サイトの使用は禁止）の使用を許可し、授業内で執筆を行った。作文の内容は、大学での専門や勉強している内容からサークル活動、さらには好きな音楽やアニメなど、多岐に渡り、特に好きな音楽やドラマ、アニメや漫画については、その題名やキャラクターなどが中国語でどのように翻訳されているのか、またどの程度中国で認知されているのかなどについても、インターネットを駆使して調べあげ、準備をしていた。

そこで、以下表 2 に、「中国語で作文を書いた感想」についてのアンケート結果について、簡潔にまとめる。このアンケートは自由記述形式で行ったが、ここでは便宜上、「(作文は) 思ったより書けた」という感想と「(作文を書くのは) 少し難しかった」という感想に分けて提示することとした（アンケートのまとめは該当する箇所のみを一部抜粋・要約した）。

表 2. 中国語で作文を書いた感想（アンケートの記述の一部抜粋・要約）

「思ったより書けた」という感想	「少し難しかった」という感想
・難しかったが、習ったことを実際に活かしているような感覚があって楽しかった	・自分の書きたいことと、今の中国語のレベルで書ける内容が一致せずもどかしい思いをしました。

-
- | | |
|--|---|
| <p>たです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な内容だが、思った以上に書くことができました。 ・こんな長文を書く事がなかったので良い機会になりました。 ・これまで書いたことがなかったためとても新鮮な気持ちを持って書くことができ、楽しかったです。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中国語を学習し始めて日が浅いため、日本語とは違う漢字の意味や、理由節の接続の仕方などが難しく苦戦しました。 ・接続詞がわからないので、単文になってしまいました。 ・別の授業で中国語の作文を毎回 100 字で書いていたので中国語の文章を書くことには少し慣れていましたが、まだ知らない中国語の語彙がたくさんあるので長い作文を書くのは難しかったです。 |
|--|---|
-

「思ったより書けた」というタイプの感想では、「習ったことを活かしているような感覚があって楽しかった。」「思った以上に書くことができた。」「新鮮な気持ちをもって書くことができた。」などの感想があり、非常に良かった。また、「少し難しかった」というタイプの感想では、「(文と文の接続の)仕方が分からなかった。」「接続詞が分からないため単文になってしまった。」などの意見が見られたが、これは、学習の進度が影響していると思われる。今回の参加者のこれまでの学習歴は、初級の教科書の途中、あるいは初級を終了したばかりの学生がほとんどであり、この初級の学習項目では、複文やテキスト⁶に関わる項目は非常に少なく、主に単文レベルの文法項目であることが関係していると考えられる。この点に関しては、今後さらに学習を進めていくことで、解決されるであろうと思われる。

中国語で書かれた作文は、文法的な誤りをチェックし、またより自然な中国語の表現に訂正するなどの修正を行い、参加者に返却した。この作文の添削および返却の方法について、表3のような感想を得たので、以下にまとめることとする（アンケートのまとめは該当する個所のみを一部抜粋・要約した）。

表3. 作文の添削・返却の仕方について（アンケートの記述の一部抜粋・要約）

「良かった点」についての感想	「改善点」についての感想
<ul style="list-style-type: none"> ・間違っているところに線を引いて直してあったところが分かりやすかったです。その後きれいに直されていたものが書かれていたのもわかりやすく良かったです。 ・自分の文をきちんとした中国語に直してもらえたのはすごく感動しました。 ・作文を添削してもらえたことでいろいろな表現方法が知ることができて良かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法誤用の説明を日本語で入れてもらえると嬉しいです。 ・間違えた箇所にコメントが欲しかったです。

・添削してもらった箇所がわかりやすかったです。

特に「改善点」についての感想として、文法の誤りのチェックに対してコメントが欲しいというものがあつた。特に初級の段階では、まだ学習していない文法項目もあるので、今後、作文を添削する際には、丁寧にコメント付した上で、返却するようにしたいと思う。

このような作文の執筆において、当初は履修者の学習の進捗を考えると、少し難しいかと考えていたが、実際に書かれた作文を見ると、一定のレベルに到達しており、また表現したいことに対する熱意が強く感じられる文章が多く、非常に感心させられた。

2. 2. オンライン言語交換

はじめに、自分で書いた作文をもとにして、作文を読む練習および自分の言葉で話す練習を繰り返し、その後、中国・蘇州科技大学の日本語を学んでいる学生とオンラインで言語交換するという活動を行った。言語交換では、中国語を上達させるという目的もあるが、同世代の中国の大学生と、オンラインではあるが、直接交流することで、相手の考え方を知ること、あるいは多様な文化の相互理解を目指すという意図もあつた。

言語交換は、中国語で 30 分間、日本語で 30 分間の合計 1 時間、富山大学の学生と蘇州科技大学の学生が一人ずつペアになり、実施した。30 分間、中国語で会話をするという活動は、初級レベルの学生にとっては少々難しいかと考えていた。そこで、30 分間の中国語での会話時間の長さについてのアンケートをとったところ、結果は図 3 のようになった。30 分間という時間は、「ちょうど良い」と回答した学生が 4 名、「少し短い」と回答したのが 3 名、「少し長い」と回答したのが 2 名であった。また、中国語での会話といつても、絶対に日本語を使用してはいけないという制限を設けていたのではなく、状況によっては日本語や英語を交えても良いという形にしてあつた。実際に言語交換の様子を観察していた感想として、確かに話題や話に少し詰まることもあつたが、各々が最後まで一生懸命に話をしていたように見受けられた。そこで、言語交換についての実際の感想を表 4 にまとめることとする（アンケートのまとめは該当する箇所のみを一部抜粋・要約した）。

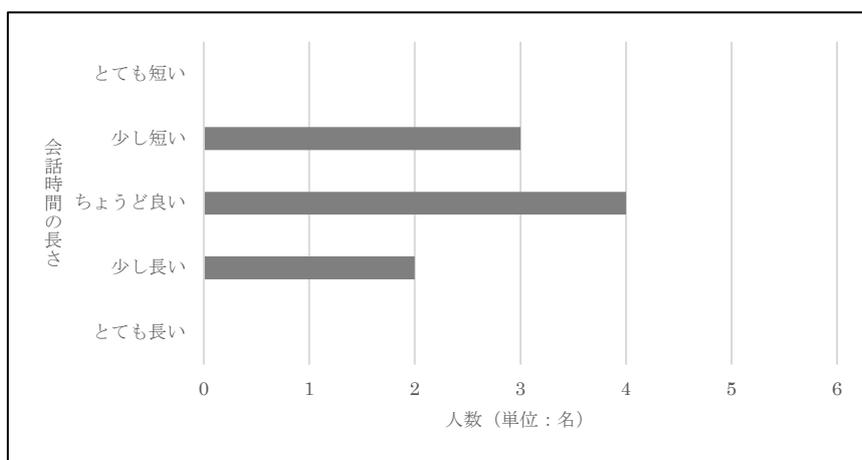


図 3. 言語交換の会話時間についての感想

が 3 名、「少し長い」と回答したのが 2 名であった。また、中国語での会話といつても、絶対に日本語を使用してはいけないという制限を設けていたのではなく、状況によっては日本語や英語を交えても良いという形にしてあつた。実際に言語交換の様子を観察していた感想として、確かに話題や話に少し詰まることもあつたが、各々が最後まで一生懸命に話をしていたように見受けられた。そこで、言語交換についての実際の感想を表 4 にまとめることとする（アンケートのまとめは該当する箇所のみを一部抜粋・要約した）。

表 4. 言語交換についての感想（アンケートの記述の一部抜粋・要約）

「良かった」という感想	「もう一歩だった」という感想
<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しいひと時でした。 ・同世代の中国の学生さんと交流する機会があったことは私にとって貴重な経験でした。 ・ご飯やアニメの話で盛り上がることでよかったです。とても楽しかったです。 ・自分の中国語力の現状がわかったのもとてもいい機会でした。 ・機器の設備や準備など前もって十分にされており、会話のみに集中することができました。 ・とても緊張したが楽しかったです。今後の中国語学習に対するモチベーションになりました。 ・相手の方の親切心や丁寧な対応、さらに共通の趣味などもあり、不慣れながらも楽しい、新鮮な経験でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の学生さんの日本語を聞いて自分の中国語の拙さを感じました。 ・日本語を多く使用しての交流となってしまったが、外国語を母語とする人が勉強をしてわざわざ日本語を習得するということは本当に素晴らしく尊敬すべきことだと感じました。その思いに、中国語で答えることが出来たらどんなに良かっただろう、と少し悔いました。 ・何を話したらいいのか話題に困りました。言いたいことを中国語ですぐに言葉にすることが難しく、日本語で話すことが少し多くなってしまいました。 ・相手が興味を持っている日本のアニメやゲームのことを私が知らなくて会話が広がりませんでした。中国で人気のものと日本で人気のものは違うんだなと感じて、事前に調べておけばよかったと思います。

言語交換について、「楽しい新鮮な経験だった」、「話が盛り上がった」、「中国語学習に対するモチベーションになった」などの意見があり、言語交換を実施してよかったと感じた。また、「日本語で話すことが多くなってしまった」、「中国の学生さんの日本語を聞いて自分の中国語の拙さを感じました」などの意見もあるが、中国側の参加者は、大学4年生の学生が多く、日本語学習歴が長い上に、中には日本への留学経験を有する学生もいた。そのため、ペアによっては、学習言語のレベルに差があり、中国側の学生が会話をリードする形で進められたケースも見られた。

2. 3. 中国語作文・言語交換を題材にした中国語文法講義

講義では、参加者の書いた中国語作文や言語交換のデータを利用して、作文の中で見られた文法的な誤りや表現上の問題、および言語交換で話された内容や表現を題材にして、授業を行った。作文課題では、特に「副詞の置く位置の誤り」や「補語の誤り」⁷など単文レベルの問題から、「情報構造の違いによる語順の間違い」⁸などのテキストのレベルの問題まで存在し、特に日本語との対照という視点を持って、中国語文法の解説を行った。また、言語交換で話された興味深い話題や表現なども履修者全員で共有した。このように、自らが作成し、表現した中国語を題材にして、文法や表現の解説を行うことで、より中国語が身近に感じられ、学習意欲が高められるのではないかと思い、実施した。

3. 今後の課題

最後に、参加者から得た、「言語交換の改善点や気づいた点」についてのアンケート結果をもとに、今後の課題を考えることとする。

表 5. 言語交換の改善点や気づいた点について（アンケートの記述の一部抜粋・要約）

-
- ・初めにお互いの自己紹介をしておきたかった。中国語で自己紹介をしてもらえたら、発音等、自分のものと比較することができていいと思います。
 - ・特にありませんが、フリートークの内容をある程度限定すると事前の準備ができて初期学習者に優しかったのかなと思います。
 - ・何かテーマがあれば、もう少し話しやすかったかもしれません。
 - ・趣味が会う人同士だったらもっと話しやすそうだし、楽しくできそうだなと思いました。
 - ・事前に質問を準備しておきたかったです。
 - ・授業中に生徒同士のペアで会話をする機会を増やすなど、事前に中国語のリスニングに耐えうる耳を育てておきたかったです。日中どちらの生徒にもゆっくり話すように呼びかけておいた方がよかったですと思います。
 - ・趣味やデータが近い人間同士でマッチングしたほうが会話の間が良くなると思います。
-

実際に、中国語で母語話者とある程度意思疎通を行うには、中級程度以上の中国語学習期間と経験が必要であると思われる。しかし、アンケート結果にあるような工夫を行うことで、初級の段階でもより有意義な形で言語交換を行える可能性があるのではないかと考えられる。具体的には、会話の内容をある程度「制限する」というのも一つであろう。また、事前に参加者の趣味や話題の内容を見てペアをマッチングすることで、話す話題に困るということは少なくなると思われるし、さらに、最初の自己紹介の仕方や話すスピードについても、特に母語とする言語を話す場合に、事前に指定しておくことで、より聞き手の理解が促進でき、会話練習になるであろう。このような指摘を十分に踏まえ、今後さらに発展的な活動に仕上げていきたいと考えている。

註

1. 「発展多言語演習中国語」は、集中講義形式で（2019-2020 年度の実績）、2019 年度は前学期の集中講義（9 月）、2020 年度は前学期（9 月）と後学期（2 月）に開講している。
2. 言語交換の一切の活動の記録は、「データの厳重な保管を行うこと、個人情報保護に基づくこと、使用目的（教育改善活動・研究活動以外には絶対に利用しないこと）等」を明記した同意書を作成し、参加者の許可を事前に得た上で、会話の録画、ならびに作文、アンケートのデータの収集を行った。
3. 「基礎Ⅰ」とは「中国語基礎Ⅰ」、「基礎Ⅱ」とは「中国語基礎Ⅱ」、「コミュニケーションⅠ」とは「中国語コミュニケーションⅠ」、「コミュニケーションⅡ」とは「中国語コミュニケーションⅡ」の省略表記である。

これらの授業は富山大学における教養教育科目であり、中国語をはじめて学習する学生を対象としている。また、中国語基礎ⅠⅡは「中国語の基本的な文法を習得すること」を目標とし、中国語コミュニケーションⅠⅡは「基本的な会話・作文の表現を習得とすること」を目標としている。これらの授業は Semester 制を取っており、「基礎Ⅰ」と「コミュニケーションⅠ」は前学期、「基礎Ⅱ」と「コミュニケーションⅡ」は後学期に開講されている（それぞれ1コマ90分授業で15コマある）。「その他（演習）」とは、学部の専門科目として開講されている中国語の授業のことを指す。

4. これまでに履修した授業について、基準とした「中国語検定試験（中検）」の各々の級で設定されている学習時間で考えると、「基礎ⅠⅡ・その他（演習）」あるいは「基礎ⅠⅡ・コミュニケーションⅠⅡ」を履修済みの学生は4級程度（中国語学習を進めて行く上での基礎的知識を身につけていること）、「基礎ⅠⅡ」あるいは「基礎Ⅰ・コミュニケーションⅠ」を履修済みの学生は準4級程度（平易な中国語を聞き、話すことができること）であると考えられる（「一般財団法人日本中国語検定協会」ホームページ：<http://www.chuken.gr.jp/tcp/grade.html> 参照）。
5. 本報告にある「言語交換」は、蘇州科技大学外国語学院の許臨揚准教授と協力して、共同で実施したものである。
6. ここでの「テキスト」(text) とは、「意味の集合体、文章において統一された全体を構成しているもの」(Halliday & Hasan 1976:1) であるという、一般的に言語学で考えられている概念を指すこととする。
7. 中国語の補語とは、動詞の後ろに置かれる述詞性の成分であり、「動作の結果あるいは状態を表す」（朱德熙 1982:125 参照）役割を果たすのである。この補語は、日本語を母語とする中国語学習者にとって習得の難しい項目の一つであり、今回の作文でも誤りが見られた。
8. 中国語の語の順序は、「一般的な・古い情報は、通常、特定の・新しい情報に先行する、つまり情報量の高い語が文の最後に現れる」（Shyu Shu-ing 2016:522 参照）という一般的な傾向に合致する。これは特定の構文において、日本語を母語とする中国語学習者にとっては、習得が難しい中国語現象の一つであり、このタイプの誤りが今回の作文でもいくつか見られた。

参考文献

Halliday, M.A.K. and Hasan, R., 1976. *Cohesion in English*, London: Longman.

Shyu Shu-ing. 2016. Information structure, Huang Chu-Ren and Shi DingXu (eds), *A Reference of Chinese*, Cambridge: Cambridge University Press, 518-576.

朱德熙 (1982) 《语法讲义》北京：商务印书馆。

福田翔

富山大学教養教育院